学生戦線 11/14 社会主義学生同盟 市大支部発行

本日の団交に結集し1000名寮建設のマスタープランを獲ちとろう！○管規制定・現寮とりこわし策動粉砕！大学協議会への学生参加をかちとれ！

(一) 本日の学長団交で獲得すべきものは何か？

11、11の大学協議会では、我々が数年来主張してきた1000名寮の一環としての200名寮が一応認められた。だが、これはまさに「一応」であってそれ以上のものではない。即ち「千名寮を建設する方向で来年度200名寮を建設する」という単なる方向だけで、具体的な計画も保証も何らなされていないし、或いは全く明らかにされていないのである。それだけではなく、わざわざ次のような但し書きまでついている。「但し、学生部 委員会は、現寮たちのき、寮管理規定の問題を解決する」更に「寮の教育的意義、厚生的意義を認める」と言っている。これは何を意味しているのか？ 現寮たちのき・管理規定を解決しない限り、千名寮も実現させない・と解釈することもできる。全く何たる居直りか?!

全国最低の寮（収容人員に於ても現寮の老朽さに於ても、その他凡ゆる面に於て）を放置して戦后以来一貫して学生が要求してきたのを無視し、又、28年マスタープラン作製以后の千名寮、之建設要求にも拘ず、一貫して寮のみならず厚生施設建設を無視してきた反省が一体どこにあるのか？ 市当局の「市民の大学に寮はいらない」或いは「もうからないところには金を出さない」という大学政策に屈服し、更に、現寮に対しても文部省の「○管規」そのままの管理規定や、負担区分をおしつけようとし、それを新寮で実現しようとしているのである。まさに「衣の下からヨロイが見える」というものだ！

したがって、本日の学長団交で我々が獲得すべき内容は、①1000名寮建設の計画と具体的保証を明らかにさせる ②現寮たちのきは1000名寮建設の現実的保障がない限り問題にならないし、したがって寮建設のための取引条件ではないこと ③一切の○管規を認めず、現在の寮自治、既得権は絶対に尊重することである。

(二) 医学部を突破口に大学機構への学生参加を実現し、大学革命＝大学コミューンを推進せよ！

曲りなりにも1000名寮案が大学協議会が認められたことは一定の前進であるとはいえ、前記のような重大な問題が残されている。同時に、このことは、数年来の我々の要求にも拘ず、ここまでたどりつくのがやっとであるということは我々に多くの教訓を与える。即ち学生の要求は、「大学の自治＝教授会の自治」というカベによって、学生部を通じてしか大学協議会に反映されず、現実には、学生部は学生の要求を反映させるパイプではなく、その防波堤としての役割を果してきたのである（例えば、学生部としては学生の意見が通るよう努力したのだが、ダメだ、たという逃げ口上を何回聞かされたことか!?）

大学の自治＝教授会の自治という国大協路線とフランス五月革命や諸学園斗争にならんで新たな衣装をまとった最近の路線（学生の意見は聞くが決定権は与えない）の反動性は今や全く明らかである。我々は、大学の決定機構への学生の直接参加と決定権の確保を主張する。新寮建設に於ても、そのマスタープラン作製に学生が参加し決定する権利を確立しない限りは、千名寮の具体的保証は得られないであろう。医学部に於て学生の決定権利人の参加を突破口に、全大学的に大学革命を推進しなければならない。

中林君（中執・E III）の保釈金・20万円カンパを！